

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）
(ふりがな)	ともざわ かずお 友澤 和夫 ほか3名	
連絡責任者氏名		科目設置機関名
(ふりがな)	ともざわ かずお 友澤 和夫	広島大学文学部
授業科目名	科目認定番号	受講者数
地理学野外演習 地理学野外実験	HRMa-081301-2 HRMa-081401-2	5（社会調査士資格を希望している者で単位を取得できたものは1名）

## I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：「地理学野外演習」で学生各自が計画したテーマにそって、「地理学野外実験」にて現地で調査実習を行い、それを報告書にまとめるという形で実施した。卒業論文のいわば練習としての位置づけがある。現地では、とくにヒアリングを主体とした調査を実行したが、先方への事前の連絡や当日の訪問も学生個人が行い、教員はそのための相談役・アドバイザー役に終始した。報告書は教員のチェックを経た内容となっている。本年度は長崎市とその周辺で実施したが、受講した学生はいずれも真面目に取り組み、まずまずの成果を得ることができたと評価している。

## II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：中小造船所の立地と存立形態-長崎市を事例に-
2. 調査の内容／概要：長崎湾における中小造船業の存立基盤をヒアリング調査に基づき明らかにする。
3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：質的調査に依拠した。長崎湾内には三菱重工業を除くと8つの中小造船所があり、その半数にあたる4つを調査対象とした。残りの4社は零細であり、ヒアリングに応じる余力がないとのことであった。また、長崎県造船協同組合にもヒアリング調査を実施した。
4. 主な調査項目：造船所の歴史、主な建造船舶とその変化、受注先とその変化、生産システム、従業者構成、企業としての戦略。

## III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：現地でのヒアリング調査、各種資料の収集による。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：2009.6.22から26にかけて実施した。調査地は長崎市であり、学生1名が実施した。
7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入）：本調査では企業へのヒアリングが質的調査といえる。事前にヒアリングしたい項目を送付しており、調査では効率的に良い情報が入手できたと評価する。

## IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：学生が調査により収集したデータと、既存文献や統計類を組み合わせる方法をとった。
9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：長崎では以西底引き網漁の低迷により漁船の需要が減少し、それが中小造船業者の動向に大きな影響を与えた。現存している企業は、官公庁向け船舶、内航貨物船、特殊漁船などに特化することにより、生産を維持している。また、現在でも長崎湾には造船に関連する業者が集積しており、そこに立地する一定の利益が存在している。
10. 報告書刊行の予定と概要：報告書は既に作成済みである。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部的\*印の箇所には数字を(\*/\*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的に記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。